

# 9月の農薬

No. 6 - 1  
令和4年9月1日

この資料は、窓口での即対応と今月と翌月の農協在庫計画にもご利用できます。

## 水稲

○斑点米カメムシ類の防除は、収穫期（刈取時期）に留意して使用しましょう。

## りんご

○ハダニ類の発生が見られる園地ではアカリタッチ乳剤2,000~3,000倍（収穫前日まで）を散布する。  
○晩生種では、9月中旬以降降雨が続く場合は更にオーソサイド水和剤800倍を散布する。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ当り薬量	10a当り散布量	備考
9月上旬	オーソサイド水和剤80	500g	-	黒点星落葉病病（輪紋点斑病）	800倍 125g	700ℓ 875g	いずれか 混用散布する。
	ドキリンフロアブル	500ml	-	すすすす点斑病	1,000倍 100ml	700ℓ 700ml	
	スタークル顆粒水溶剤	100g 250g 500g	-	シンクイムシ類	2,000倍 50g	700ℓ 350g	
	モスピラン顆粒水溶剤	100g 250g	○	キンモンホソガ	2,000倍 50g	700ℓ 350g	
9月上旬	ストッポール液剤（単用散布）	500ml	-	りんご落果防止	1回目 1,500倍	500ℓ 333ml	収穫開始予定日の25日~7日前、2回散布の場合は1回目散布10日程度間隔あける。
9月中旬	ストライド顆粒水和剤※1	333g	-	黒点星落葉病病（輪紋点斑病）	1,500倍 67g	700ℓ 467g	晩生種のみ散布する。
	スカウトフロアブル	500ml	○	シンクイムシ類	2,000倍 50ml	700ℓ 350ml	
	ロディー水和剤	500g	○	キンモンホソガ	1,000倍 100g	700ℓ 700g	
	エクシレルSE	200ml 500ml	-	カメムシ類	5,000倍 20ml	700ℓ 140ml	

※1：ストライド顆粒水和剤は散布後高温に経過した場合、樹勢の弱い樹や品種（スターキング等）などの条件によって、葉裏が茶褐色を帯びたり黄変落葉が生じる事例がありますが、通常、実用上の影響はありません。ただし、最高気温が30℃を超える日が数日続くことが予想される場合は使用を控えてください。

## もも

せん孔細菌病は、今の時期に菌密度を下げるのが重要です。収穫後の防除を徹底しましょう。（ICボルドー412を7~10日間隔で2回散布する）

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ当り薬量	10a当り散布量	備考
9月上旬（収穫後）	スミチオン水和剤40	500g 1kg	-	シンクイムシ類	1,000倍 100g	400ℓ 400g	収穫後7~10日間隔で、2回散布を徹底する。
	ハイテンパワー（展着剤）	500ml	-	モモハモグリガ	10,000倍 10ml	400ℓ 40ml	
	ICボルドー412	5kg 10kg	-	せん孔細菌病	30倍 3.3kg	400ℓ 13.3kg	

園地の清掃 空袋等を処分して下さい。灰星病の被害果を集め土中深く埋没して下さい。

コスカシバ対策（もも、おうとう）  
10月以降の落葉期に枝幹に散布する。ラビキラー乳剤200倍（50ml/10ℓ）

## かき

落葉病、炭そ病の仕上げ防除をしましょう。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ当り薬量	10a当り散布量	備考
9月上旬	ベルコート水和剤	100g 500g	-	すす点病	1,000倍 100g	500ℓ 500g	収穫14日前まで
	アミスター10フロアブル	500ml	-	炭うどんこび病	1,000倍 100ml	500ℓ 500ml	収穫7日前まで
	フリントフロアブル25	500ml	-	灰色かび病	2,000倍 50ml	500ℓ 250ml	収穫前日まで

## ぶどう

収穫終了後の防除は、極力間を開けないで防除しましょう。散布直後に降雨があった場合は追散布を実施しましょう。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ当り薬量	10a当り散布量	備考
9月（収穫後）	ICボルドー66D	5kg	-	さびと病	50倍 2kg	300ℓ 6kg	
	スミチオン水和剤40	500g 1kg	-	フタテンヒメヨコバイコガネムシ類成虫	1,000倍 100g	300ℓ 300g	
9月上旬	ICボルドー48Q	5kg	-	べと病	50倍 2kg	300ℓ 6kg	棚上散布する。
9月（収穫後）	ICボルドー66D	5kg	-	さびと病	50倍 2kg	300ℓ 6kg	
	スミチオン水和剤40	500g 1kg	-	フタテンヒメヨコバイコガネムシ類成虫	1,000倍 100g	300ℓ 300g	

ブドウトラカミキリ対策  
10月以降、休眠期にラビキラー乳剤200~300倍を母枝・古つるを中心に十分散布する。（但し、ガットサイドSを使用した場合は散布しない。）

## 西洋なし

輪紋病は8月以降も降雨が続く場合、9月上旬頃まで感染しますので、散布間隔を開けずいねいに防除しましょう。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ当り薬量	10a当り散布量	備考
9月上旬	オキシンドー水和剤80	500g 835g	-	輪紋病	1,200倍 83g	600ℓ 500g	いずれか 混用散布する。
	ストロビードライフフロアブル	250g 500g	-	シンクイムシ類	2,000倍 50g	600ℓ 300g	
	スカウトフロアブル	500ml	○	アブラムシ類	2,000倍 50ml	600ℓ 300ml	
	スタークル顆粒水溶剤	100g 250g 500g	-	カメムシ類	2,000倍 50g	600ℓ 300g	
9月中下旬	オキシンドー水和剤80	500g 835g	-	輪紋病	1,200倍 83g	600ℓ 500g	いずれか
	トップジンM水和剤	250g 500g	-	輪紋病	1,500倍 67g	600ℓ 400g	
	エクシレルSE	200ml 500ml	-	シンクイムシ類	5,000倍 20ml	600ℓ 120ml	収穫前日まで
	ハイテンパワー（展着剤）	500ml	-	-	10,000倍 10ml	600ℓ 60ml	

※ストロビードライフフロアブルはおうとうには葉害の恐れがあるので飛散しないよう注意する。

## 果樹の除草剤

ザクサ液剤の秋期散布（11月中旬）は翌春の雑草発生を長く抑えます。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	10a当り使用量	効果発現	持続期間	対象雑草
秋期	ザクサ液剤	500ml 5ℓ 20ℓ	-	300~1,000ml 水量100~150ℓ	3~5日	30~35日	一年生雑草 多年生雑草



もっと近くに。

全農山形県本部 生産資材部

電話番号 023-687-8700

FAX番号 023-634-8182

農薬はJAマークの製品を！

先入れ先出しの励行を！



# 9月の農薬

No. 6 - 2  
令和4年9月1日

この資料は、窓口での即対応と今月と翌月の農協在庫計画にもご利用できます。

## キャベツ・はくさい

- アブラナ科野菜は、コナガの他、アオムシ、ヨトウムシが好んで加害するので、同時防除剤を上手に活用しましょう。
- 各害虫共に、発生初期（若令幼虫）の時期に早めに防除しましょう。

### (1) コナガ対策

分類	薬剤名	規格	譲渡書	主な対象害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
A	ジェイエース水溶剤	100g 500g	-	(コナガ)、アオムシ、(ヨトウムシ)、アブラムシ類他	1,500倍 67g	200ℓ 133g	A：有機リン系薬剤 ※ジェイエースはオルトランと同成分の薬剤で、製剤も水溶剤で汚れが少ないのが特長。
B	コテツフロアブル	100ml 250ml	○	コナガ、アオムシ	2,000倍 50ml	200ℓ 100ml	B：呼吸系阻害剤 蚕毒・魚毒が強いので、注意する。
C	トアローフロアブルCT	500ml	-	コナガ、アオムシ	1,000倍 100ml	200ℓ 200ml	C：B・T剤（トアローは死菌剤） 生菌剤として、エスマルク、ゼンターリなどがある。
D	パダンSG水溶剤	100g 500g	○	コナガ、アオムシ	1,500倍 67g	200ℓ 133g	D：ネライストキシ系薬剤 蚕毒・魚毒が強いので注意する。粉剤も登録あり。
E	カスケード乳剤	250ml	-	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	4,000倍 25ml	200ℓ 50ml	E：IGR剤 蚕毒が強いので注意する。
	ノーモルト乳剤	500ml	-	他	2,000倍 50ml	200ℓ 100ml	キチン合成阻害作用なので遅効性である。
F	マブリック水和剤20	250g 500g	○	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、アブラムシ類他	2,000倍 50g	200ℓ 100g	F：合成ピレスロイド剤
	アディオソ乳剤	100ml 500ml	-		2,000倍 50ml	200ℓ 100ml	蚕毒・魚毒が強いので注意する。
G	アフファーム乳剤	100ml	-	アオムシ、コナガ、(オオタバコガ)	2,000倍 50ml	200ℓ 100ml	G：マクロライド系薬剤 抵抗性が発達しやすいので、年1回の使用とする。
	アニキ乳剤	100ml	-				
H	スピノエース顆粒水和剤	100g	-	コナガ、アオムシ	5,000倍 20g	200ℓ 40g	H：スピノシン系薬剤 蚕毒が強いので注意する。
	ディアナSC	100ml	-		5,000倍 20ml	200ℓ 40ml	
I	トルネードエースDF	250g 500g	-	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ	2,000倍 50g	200ℓ 100g	I：オキサジアジン系薬剤 蚕毒が強いので注意する。
J	プレオフロアブル	100ml 500ml	-		1,000倍 100ml	200ℓ 200ml	J：新しいタイプの殺虫剤 天敵、有用昆虫に対し影響が少ない。残効性に優れる。
K	フェニックス顆粒水和剤	100g 250g	-	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ他	2,000倍 50g	200ℓ 100g	K：ジアミド系薬剤 天敵、有用昆虫に対し影響が少ない。残効性に優れる。
	ブレバソフロアブル5	250ml	-		2,000倍 50ml	200ℓ 100ml	
	ベネビアOD	250ml 500ml	-				
L	グレーシア乳剤	250ml	-	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ他	2,000倍 50ml	200ℓ 100ml	L：グレーシア乳剤（イソキサゾリン系）、プロフレアSC（メタジアミド系） 即効性があり残効も長い。耐雨性にも優れる。
	プロフレアSC	250ml 500ml	-				

- ※1 各薬剤をローテーションで使用すること。
- ※2 コテツフロアブルおよびアフファーム乳剤、アニキ乳剤は年1回の使用とし、コテツフロアブルは幼苗期（1～3葉期）は葉害が出る恐れがあるので使用しない。
- ※3 コナガは、抵抗性が発達しているところが多いので、被害が出ない程度まで抑えることが重要です。

### (2) 軟腐病対策（作物登録のある薬剤を選んでご使用ください）

軟腐病はキスジノミハムシなどの害虫の加害を受けた傷口から病原菌が侵入するので、害虫の防除を徹底することが重要です。また、台風など（強風）により受けた傷口からも感染する場合もあるので、被害があった場合はただちに殺菌剤を散布しましょう。

分類	薬剤名	規格	譲渡書	対象病害	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
A	カスミンボルドー	100g 500g	-	軟腐病	1,000倍 100g	200ℓ 200g	A：抗生物質・銅剤 予防効果と治療効果を併せ持つ剤である。※キャベツで適用あり
B	スターナ水和剤	100g 500g	-	軟腐病	1,000倍 100g	200ℓ 200g	B：オキシソリニック酸 予防効果のみである。 ※キャベツ、はくさいで適用あり
C	マスタピース水和剤	100g	-	軟腐病	1,000倍 100g	200ℓ 200g	C：微生物剤 予防効果のみである。
D	バリダシン液剤5	500ml	-	軟腐病	800倍 125ml	200ℓ 250ml	D：抗生物質（バリダマイシン） 治療効果もある。 ※キャベツ、はくさいで適用あり はくさいは500倍登録

- ※1 A・B・C系統の薬剤を中心に使用し、予防防除を行うことが重要です。本病害は、バクテリア（細菌）性の病害なので、他病害防除も兼ねて、銅剤を中心に使用し防除します。尚、治療効果のある薬剤は少ない現状にあります。
- ※2 ベと病と症状が似ているので、見分ける場合は、病斑部分の臭いを調べる（強い腐臭がある場合は、軟腐病と思われます）。
- ※3 キスジノミハムシ防除剤として、スタークル顆粒水溶剤（2,000倍、収穫3日前：はくさい）、エルサン乳剤（1,000～2,000倍、収穫14日前：キャベツ、収穫21日前：はくさい）などがある。

### (3) ベと病対策（作物登録のある薬剤を選んでご使用ください）

分類	薬剤名	規格	譲渡書	対象病害	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
A	ダコニール1000	250ml 500ml	-	べと病	1,000倍 100ml	200ℓ 200ml	A：有機塩素系薬剤 予防効果のみである。 ※キャベツ、はくさいで適用あり
B	ペンコゼブ水和剤	500g	-	べと病	600倍 167g	200ℓ 333g	B：有機硫黄系薬剤 予防効果のみである。 ※キャベツ、はくさいで適用あり
C	アミスター20フロアブル	250ml	-	べと病	2,000倍 50ml	200ℓ 100ml	C：ストロビルリン系薬剤 予防・治療両効果を併せ持つ。 ※はくさいのみ適用あり
D	ホライズンドライフロアブル	200g	-	べと病	2,500倍 40g	200ℓ 80g	D：ファモキサドン+シモキサニル剤 予防・治療効果を併せ持つ剤である。 ※はくさいのみ適用あり
E	プロポーズ顆粒水和剤	100g 500g	-	べと病	1,000倍 100g	200ℓ 200g	E：ダコニール+ベンチアパリカルブ剤 ※キャベツ、はくさいで適用あり 予防・治療効果を併せ持つ剤である。JAのみの取扱商品になります。

- ※1 A・B系統の薬剤を中心に使用し、予防防除を行うことが重要です。発病した場合はただちにC系統の薬剤を散布する。また、本病害は雨等の水分により、感染率が高まるので降雨があった場合、直後に防除すると効果的です。
- ※2 病斑は軟腐病と似ていますが、腐臭が少ないのが特徴です。

### (4) ナメクジ類（ウスカワマイマイ等を含む）の対策

- A 作物の生育初期で葉が繁茂する前は**スラゴ粒剤**を1～5g/平方mの割合で配置する。（野菜畑・庭等で使用可）
- B 生育期中～後期は葉が繁茂するので、**液剤タイプ**の散布剤**マイキラー**を200倍を散布する。（畑作物栽培ほ場周辺および、花卉栽培はハウス内で使用可）
- C キャベツではナメクリーン3を3g/平方m散布する（収穫14日前まで）。
  - ※1 発生初期に処理すると効果的です。
  - ※2 降雨に合うと流亡するので、天候を見はからって処理すること。
  - ※3 ナメクジ類及びウスカワマイマイ類は、湿度が高い夜間に食害するので、夕方の処理が効果的です。